

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年1月30日

予報期間：2月1日～2月28日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

期間の前半は、全国的に気温がかなり低くなる見込みです。また、北・東・西日本日本海側を中心に、期間の前半は、降雪量がかなり多くなる可能性があります。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。
東・西日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

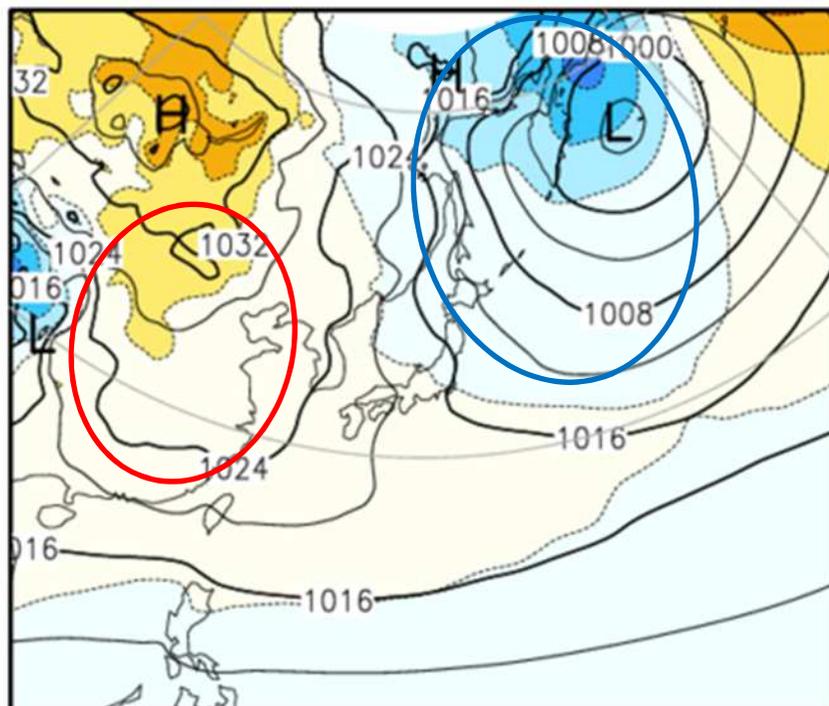
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	30:30:40	20:40:40	40:40:20	30:30:40
	太平洋側		30:40:30	30:40:30	
東日本	日本海側	40:40:20	20:40:40	40:40:20	20:40:40
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
西日本	日本海側	50:30:20	20:40:40	40:40:20	20:40:40
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
沖縄・奄美		50:40:10	40:30:30	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:40:40	40:40:20	20:40:40
東日本	50:40:10	50:40:10	20:40:40
西日本	60:30:10	60:30:10	30:40:30
沖縄・奄美	70:20:10	60:30:10	40:30:30

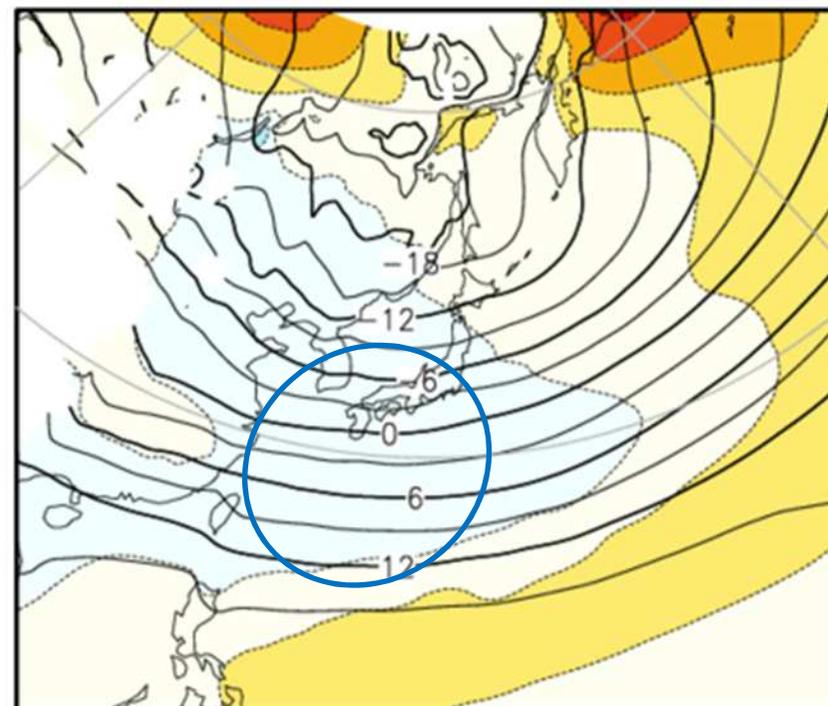
全般予報のポイント

- ・期間の前半に寒気の影響を受けるため、向こう1か月の気温は、東日本では平年並か低く、西日本と沖縄・奄美では低いでしょう。特に、期間の前半は、全国的に気温がかなり低くなる見込みです。
- ・冬型の気圧配置が強まる時期があるため、北・東・西日本日本海側では、向こう1か月の降水量は平年並か多く、向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。また、東・西日本日本海側の向こう1か月間の降雪量は、平年並か多いでしょう。特に、期間の前半は、北・東・西日本日本海側を中心に降雪量がかかなり多くなる可能性があります。

海面気圧(1か月)



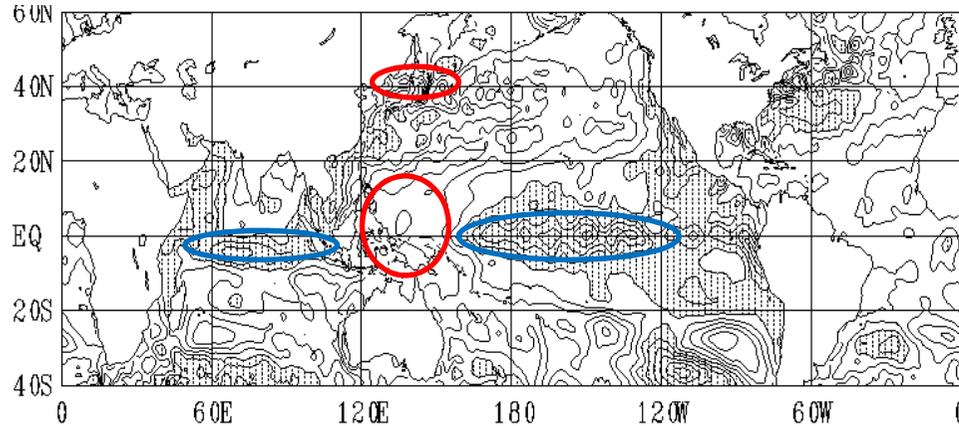
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、カムチャツカ半島付近で低気圧が強い一方、シベリア高気圧が強く東シナ海まで張り出し、日本付近は期間前半を中心に冬型の気圧配置が強まるでしょう。

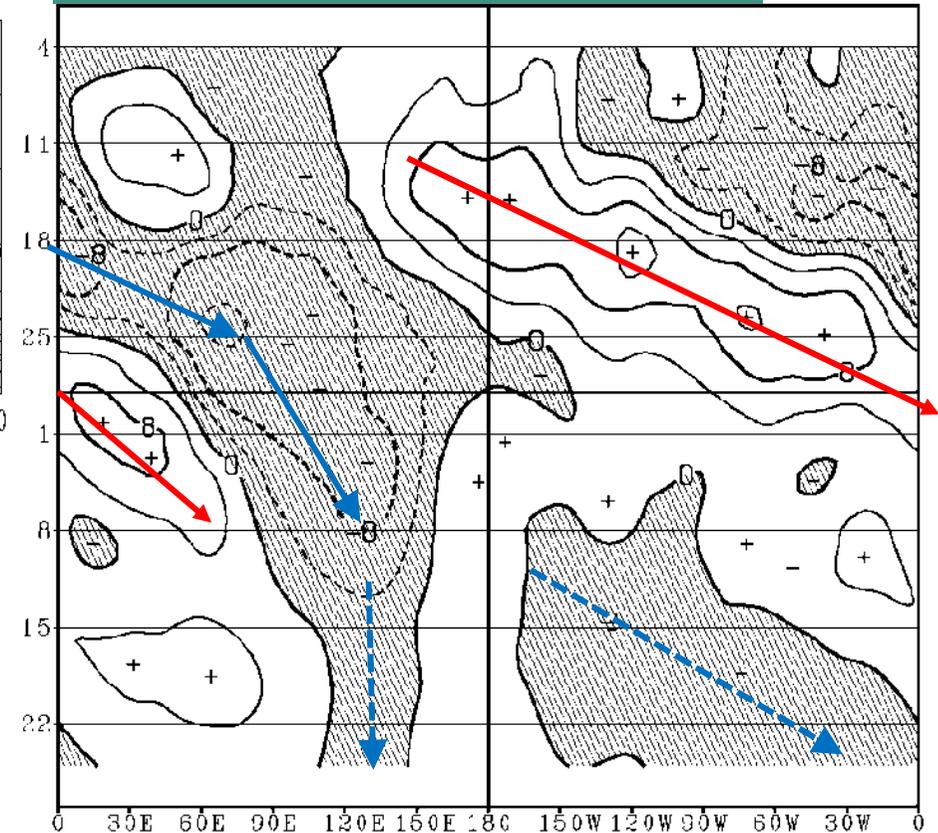
上空約1500mの気温(右図)は、東・西日本と沖縄・奄美は平年より低い領域に覆われ、期間前半を中心に寒気の影響を受けやすいでしょう。

SST偏差



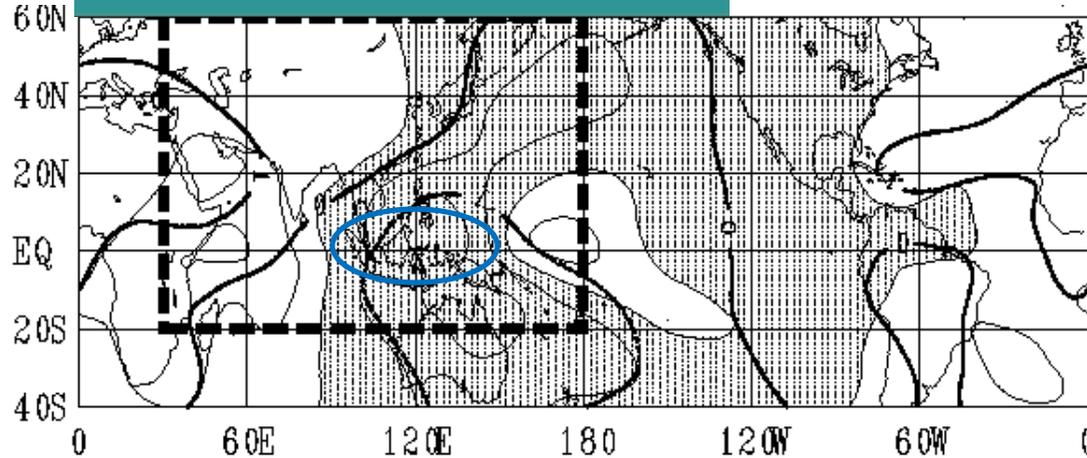
熱帯域では、インド洋で負偏差。インドネシア付近から太平洋西部にかけて正偏差。太平洋赤道域中・東部で負偏差。ラニーニャ現象的なSST偏差分布。日本海北部から日本の東にかけて正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



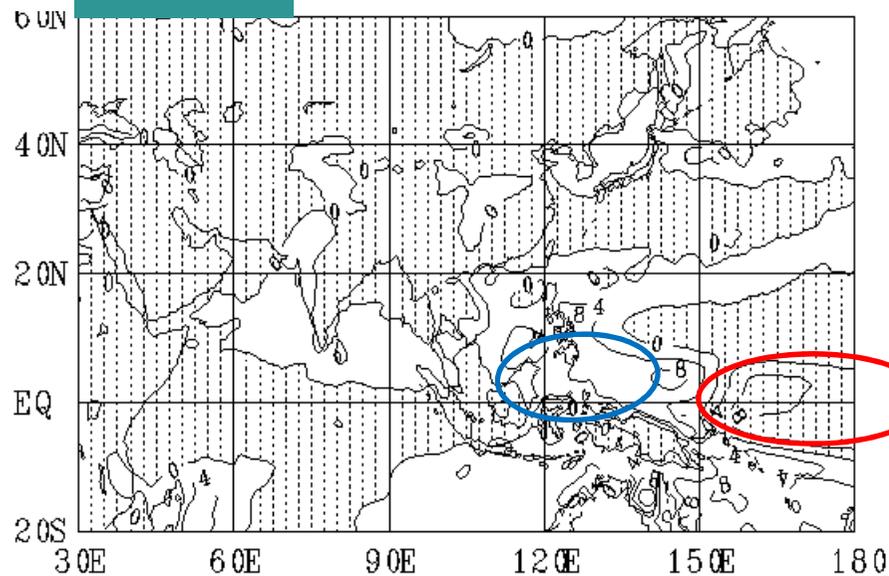
振幅の大きな赤道季節内振動(MJO)に伴い、対流活動活発域が期間前半にインド洋中部からインドネシア付近に東進。期間後半は活発域が太平洋東部に東進するが、インドネシア付近でもやや活発な状態が持続。

200hPa速度ポテンシャル



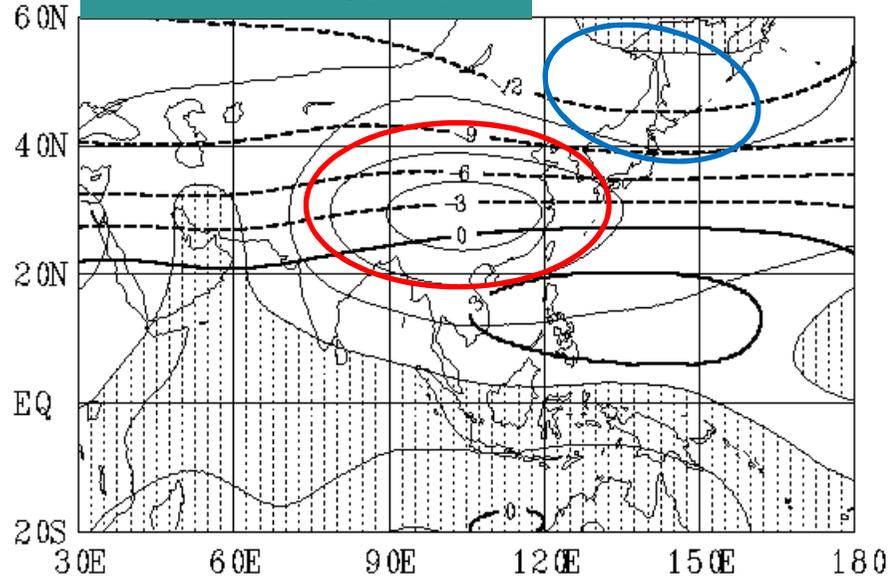
熱帯の対流活動に対応して、
インドネシア付近で上層発散
偏差。

降水量



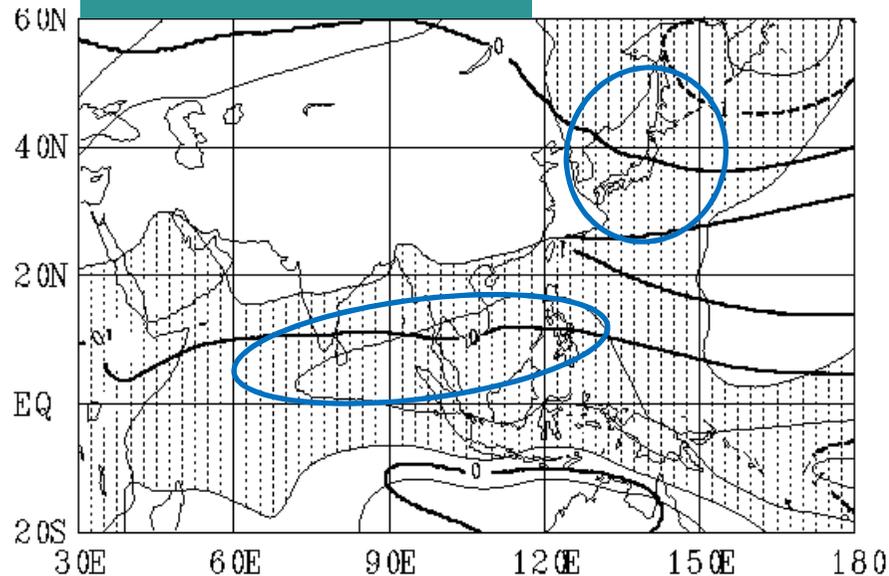
インドネシア付近で多雨偏差の
一方、日付変更線付近で少雨
偏差。

200hPa流線関数



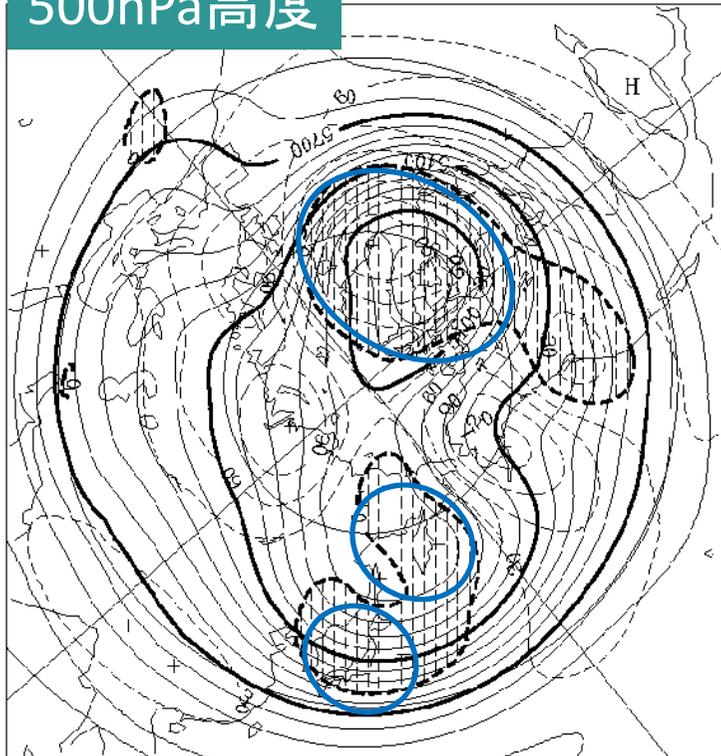
チベット付近から東シナ海にかけて高気圧性循環偏差、日本付近に相対的な低気圧性循環偏差。これらの形成には、熱帯対流活動が一部寄与。

850hPa流線関数



熱帯の対流活発の影響で、インド洋からフィリピン付近にかけて低気圧性循環偏差。日本付近は低気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

500hPa高度



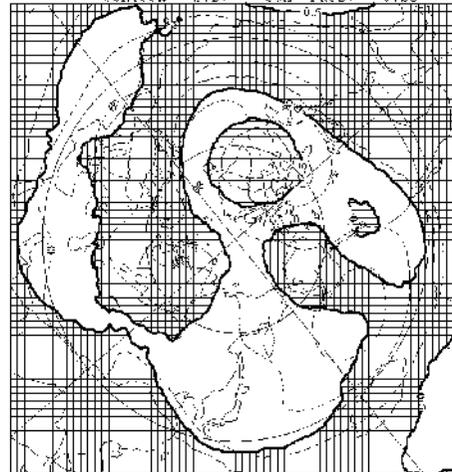
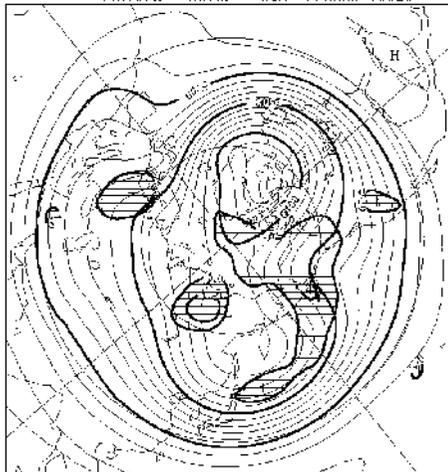
極渦が分裂して、一つがカナダの北東にあって強く、もう一つが東シベリアにある。日本付近は、後者の極渦と亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播の影響でトラフで負偏差。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

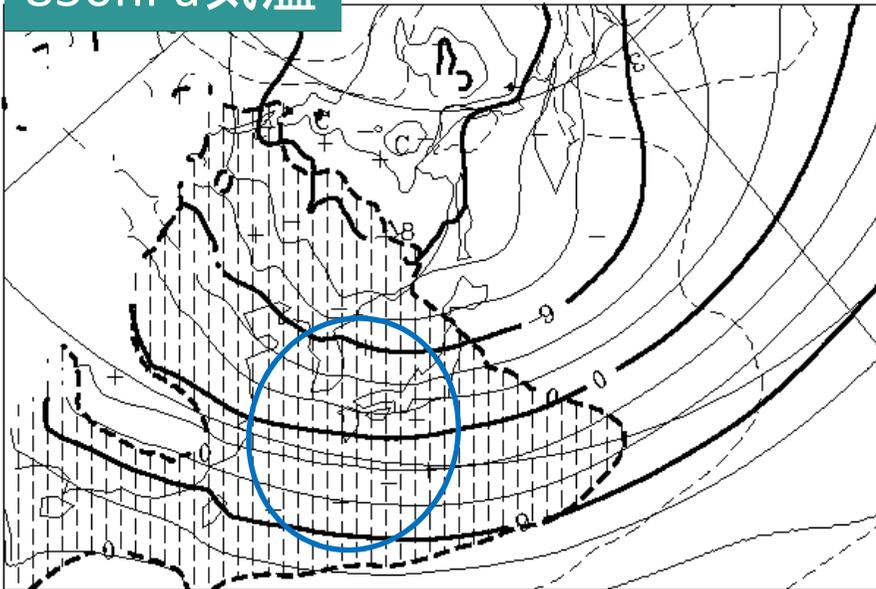
PROF. OF HEIGHT ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 0.25

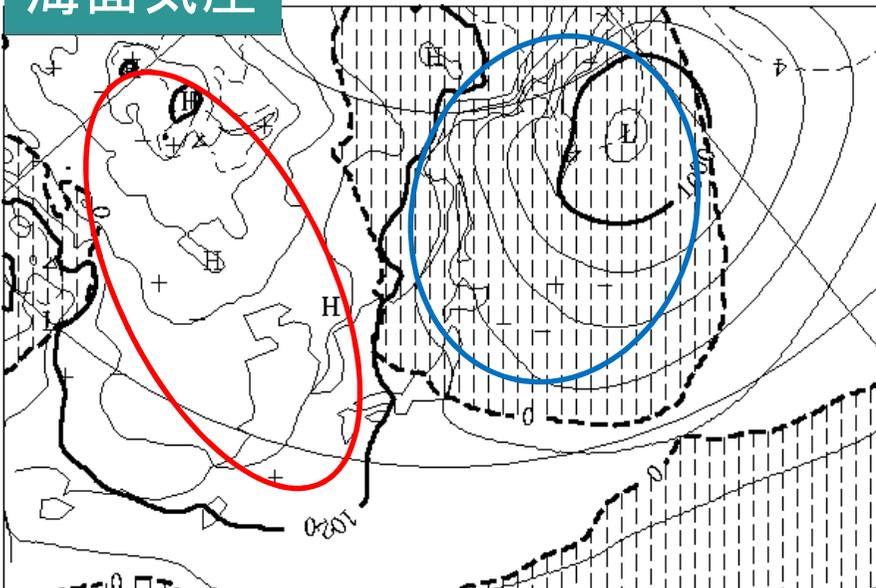


850hPa気温



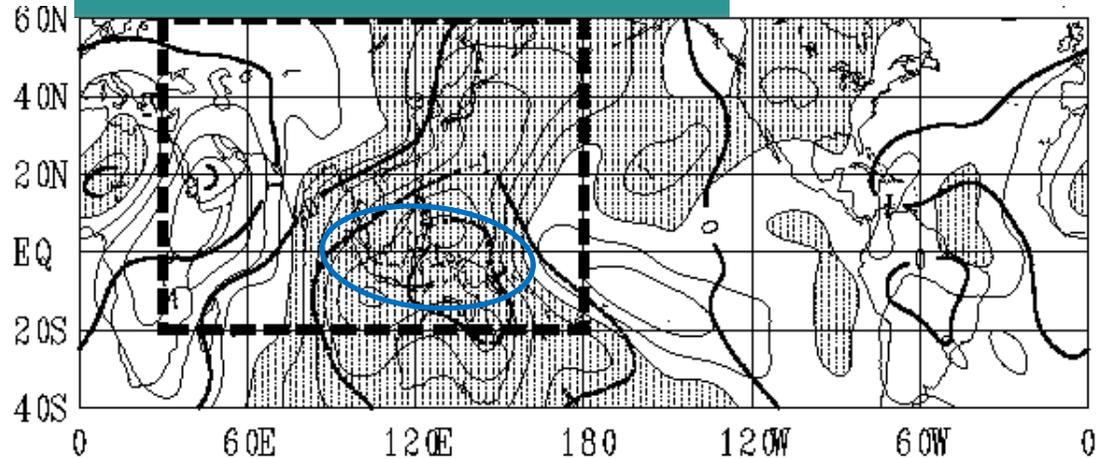
東・西日本と沖縄・奄美は平年より低い領域に覆われ、期間前半を中心に寒気の影響を受けやすい。

海面気圧



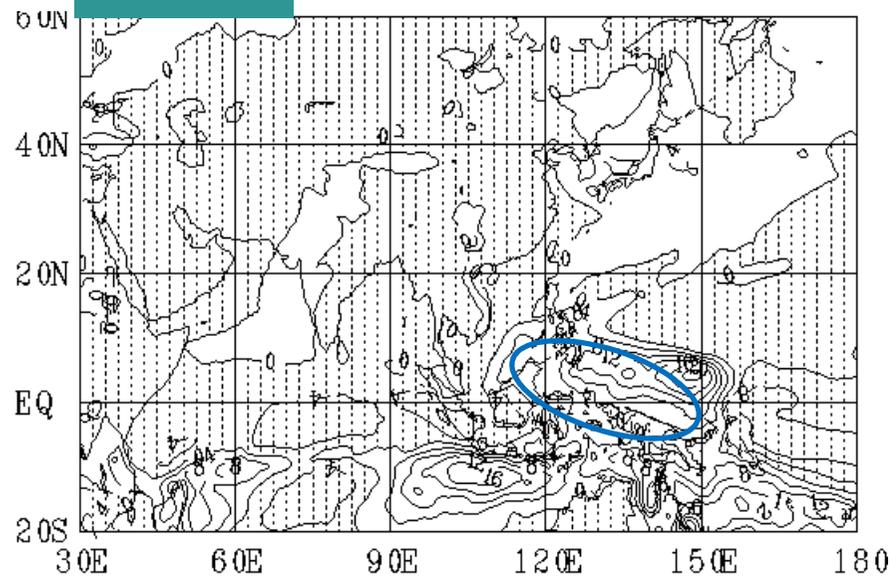
カムチャツカの東を中心に低気圧が強い一方、シベリア高気圧が強く東シナ海まで張り出し、日本付近は期間前半を中心に冬型の気圧配置が強まる。

200hPa速度ポテンシャル



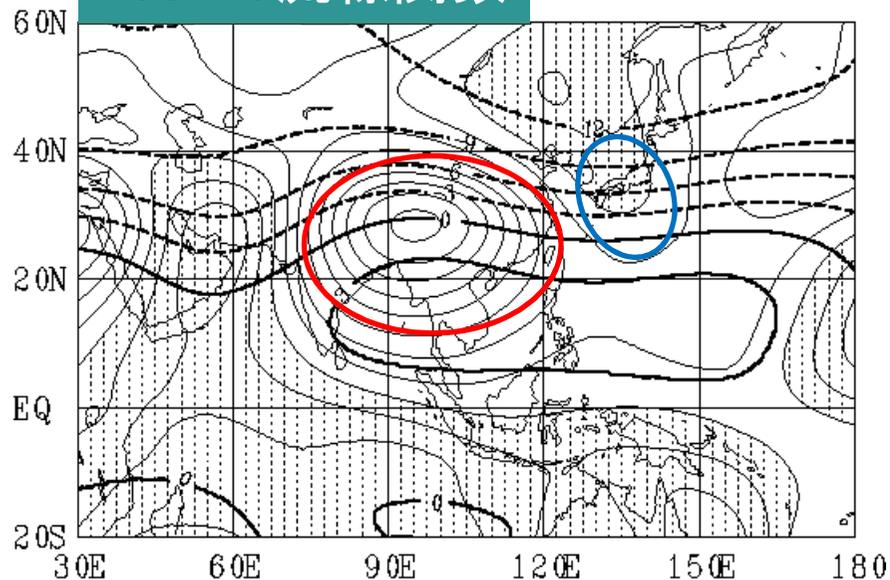
熱帯域では、インド洋東部からインドネシア付近にかけて上層発散偏差。

降水量



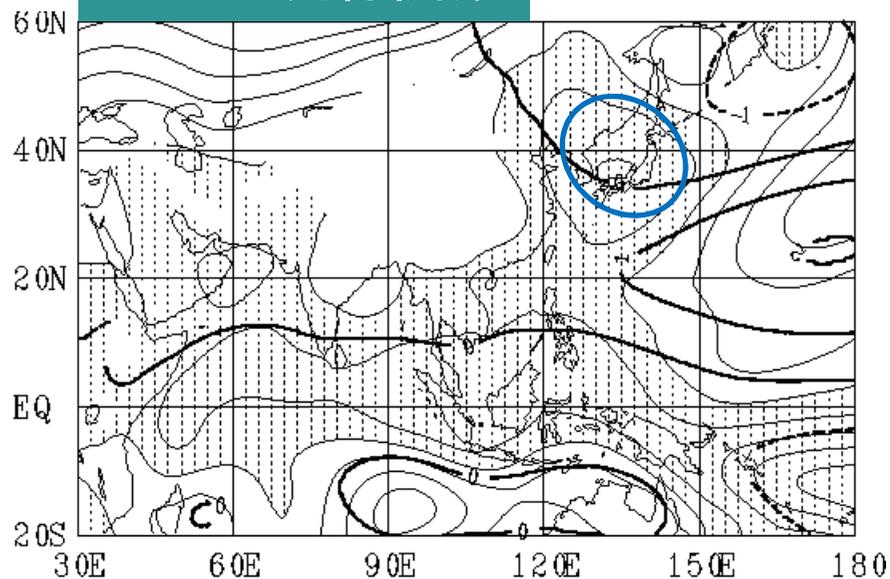
インドネシア付近で多雨偏差。

200hPa流線関数



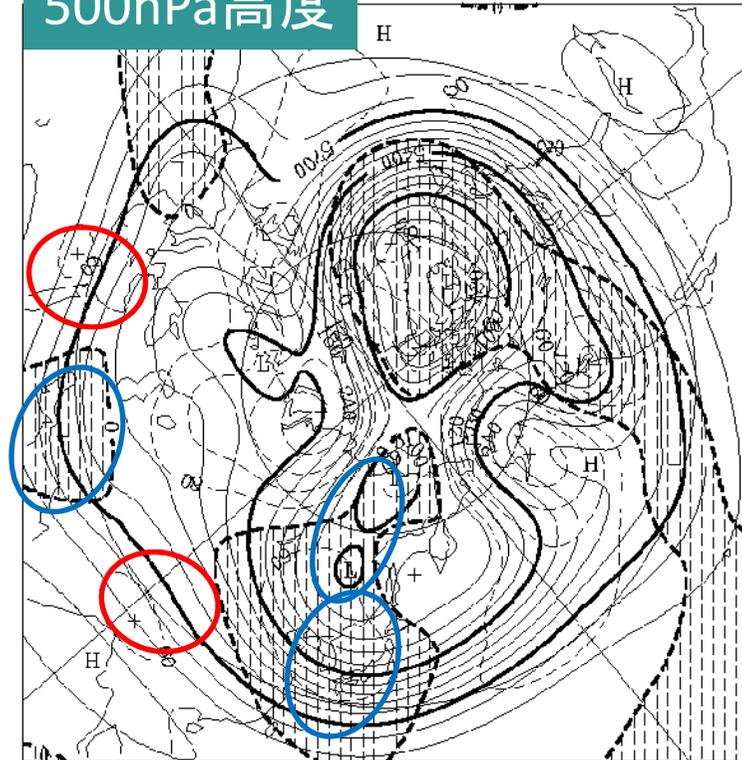
亜熱帯ジェット気流沿いの波列が明瞭で、その一環としてチベットから華南付近で高気圧性循環偏差、日本付近で低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



上層の波列に対応して、日本付近で低気圧性循環偏差。

500hPa高度

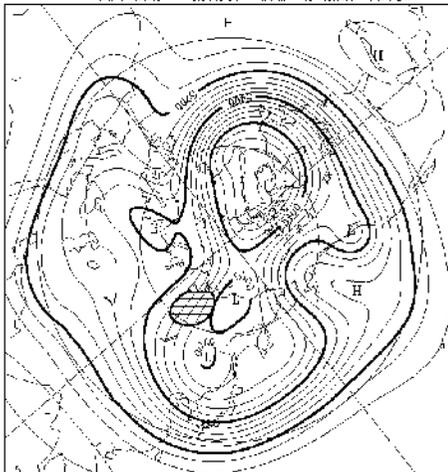


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

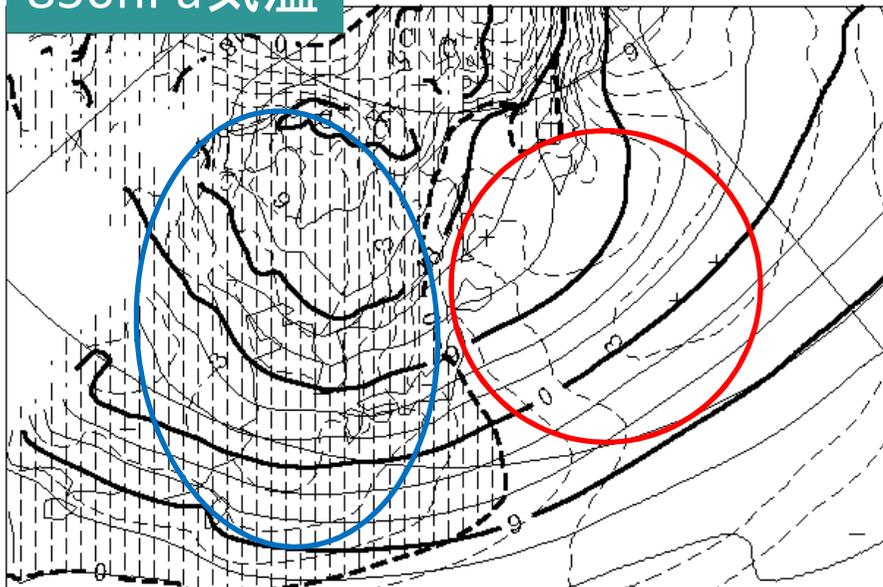
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



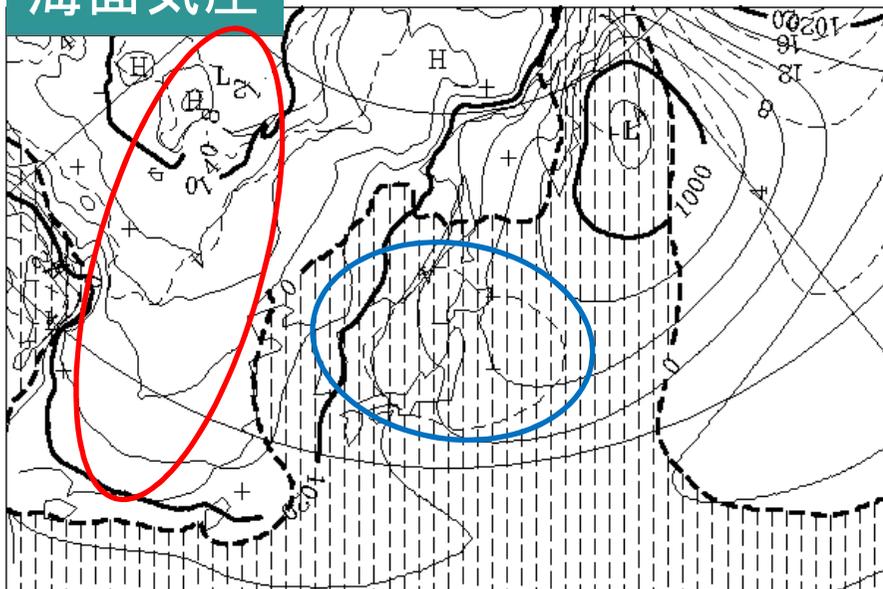
分裂した極渦の一つが東シベリアにあってトラフが中国東北区にのびる。また、亜熱帯ジェット気流沿いの波列が明瞭。これらにより、寒帯前線ジェット気流と亜熱帯ジェット気流が日本付近で合流し南に蛇行し、日本付近は強い負偏差で、負の高偏差確率50%以上の領域がかかる。

850hPa気温



大陸からの西回りの寒気流入により、東日本以西で負偏差。一方、北日本は正偏差。

海面気圧



日本付近は負偏差で、低気圧の影響を受けやすい。また、シベリア高気圧が強く、低気圧通過後、東・西日本を中心に冬型の気圧配置が強まる。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、低気圧や低気圧通過後の冬型の気圧配置の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、低気圧や低気圧通過後の冬型の気圧配置の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、低気圧や寒気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

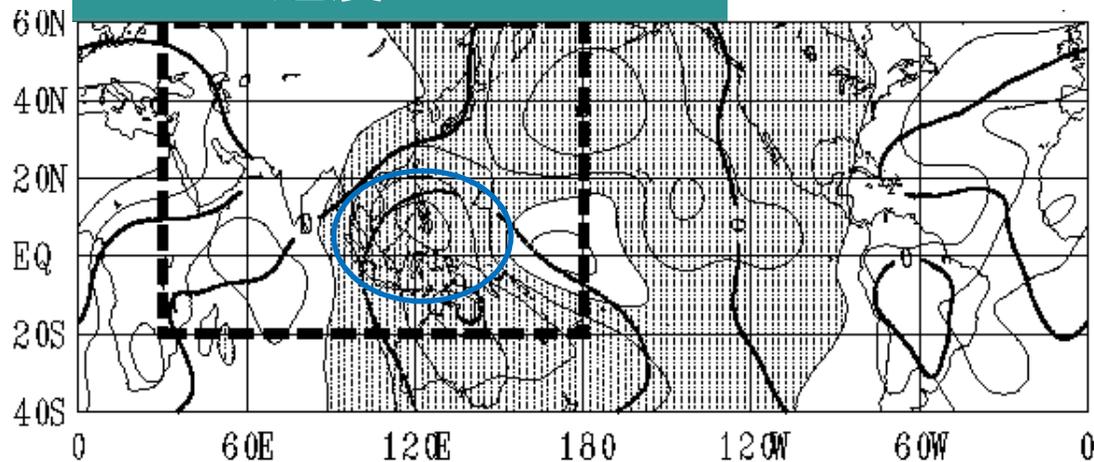
<気温>

・北日本は寒気の影響が弱いため高温傾向。一方、東・西日本と沖縄・奄美で寒気の影響を受けやすく低温で、2月4日頃からはかなりの低温。

<天候>

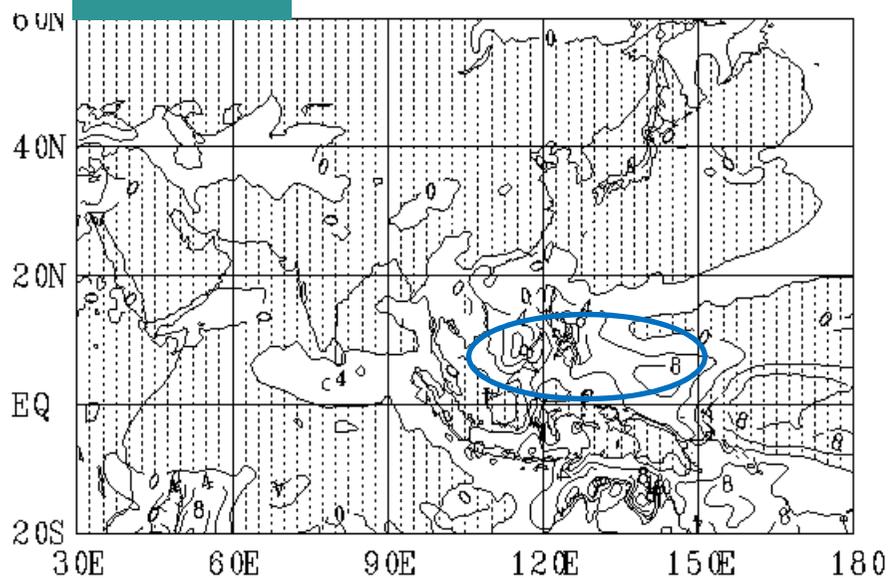
・2月1日から2日にかけて、東・西日本を低気圧が通過後、2月4日頃から日本付近は冬型の気圧配置となる。北・東・西日本日本海側と沖縄・奄美は低気圧と冬型の気圧配置の影響、北・東・西日本太平洋側は、期間前半に低気圧の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



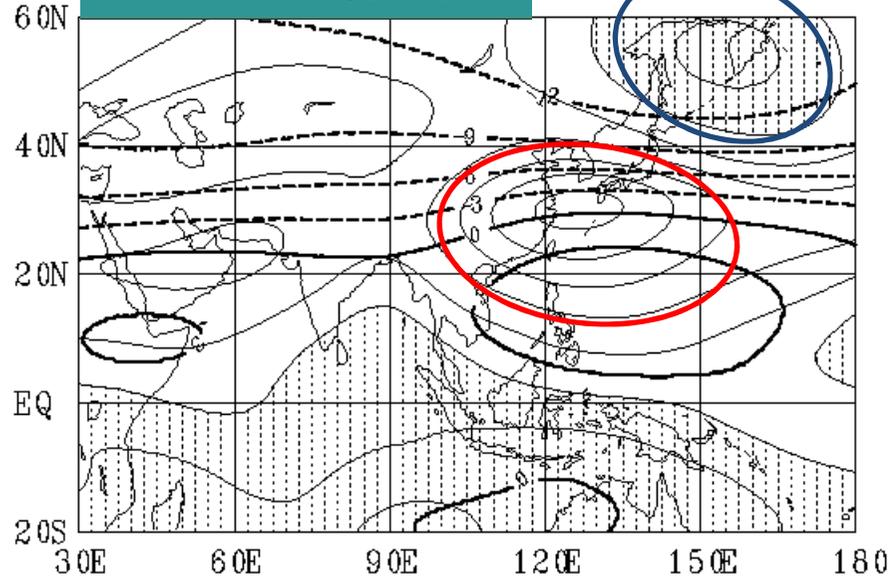
熱帯域では、フィリピン付近を中心に上層発散偏差。

降水量



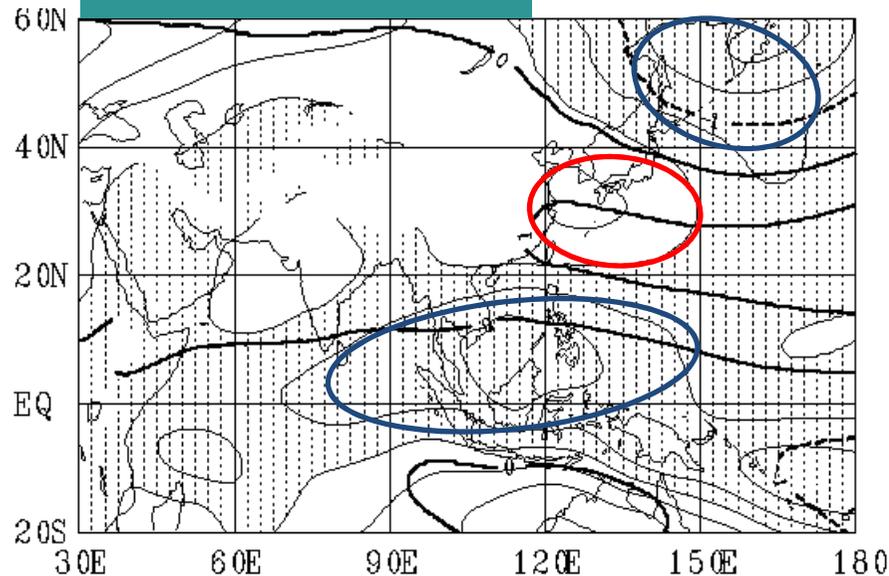
フィリピン付近から西部熱帯太平洋にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



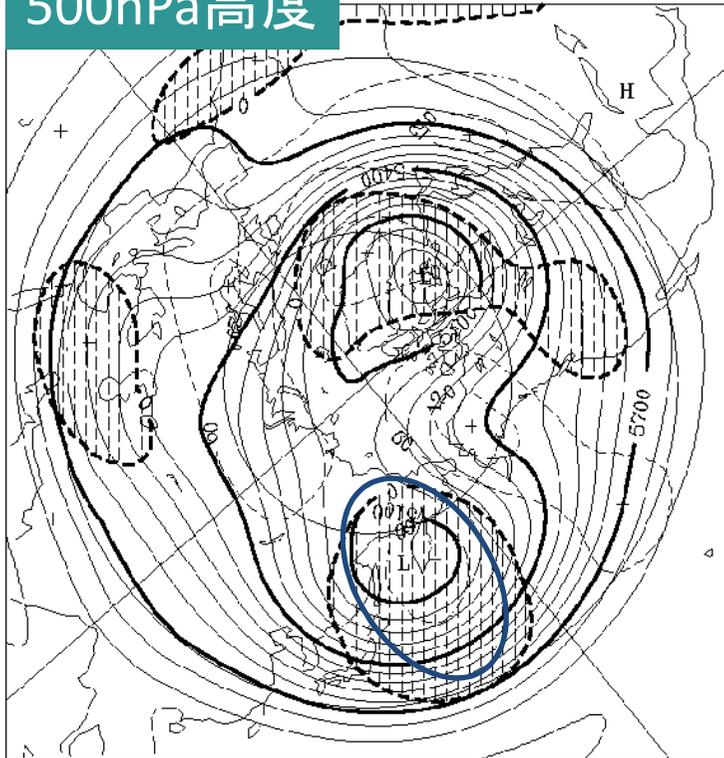
華中から日本の南東にかけて高気圧性循環偏差、オホーツク海中心に低気圧性循環偏差。これらの偏差の形成には、熱帯の対流活動が一部寄与。

850hPa流線関数



ベンガル湾からフィリピン東方海上にかけて低気圧性循環偏差で、熱帯の対流活動に強制されたと推察。また、本州付近に高気圧性循環偏差、オホーツク海中心に低気圧性循環偏差で、これらは順圧構造。

500hPa高度



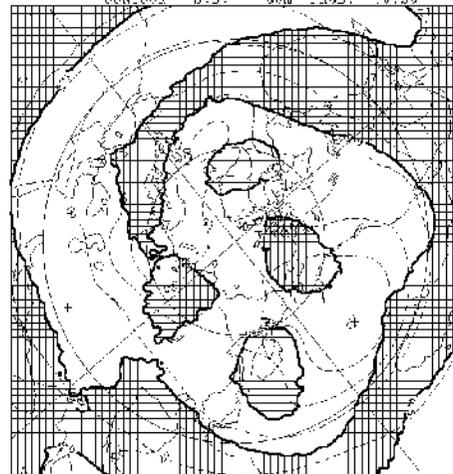
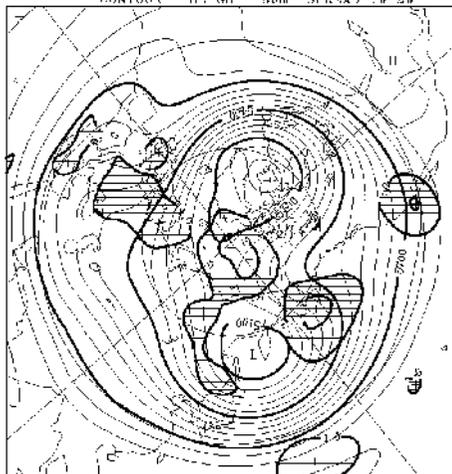
分裂した極渦の一つがオホーツク海付近にあって、トラフが日本の東にのび、北・東日本は負偏差。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

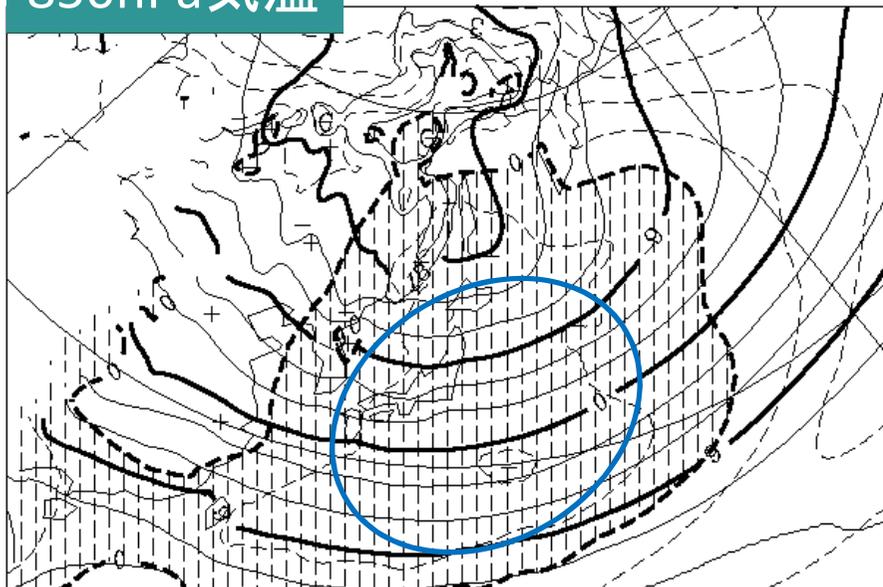
PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD : 0.20

CONTOUR S.D. : 30m 2.00 : 0.20

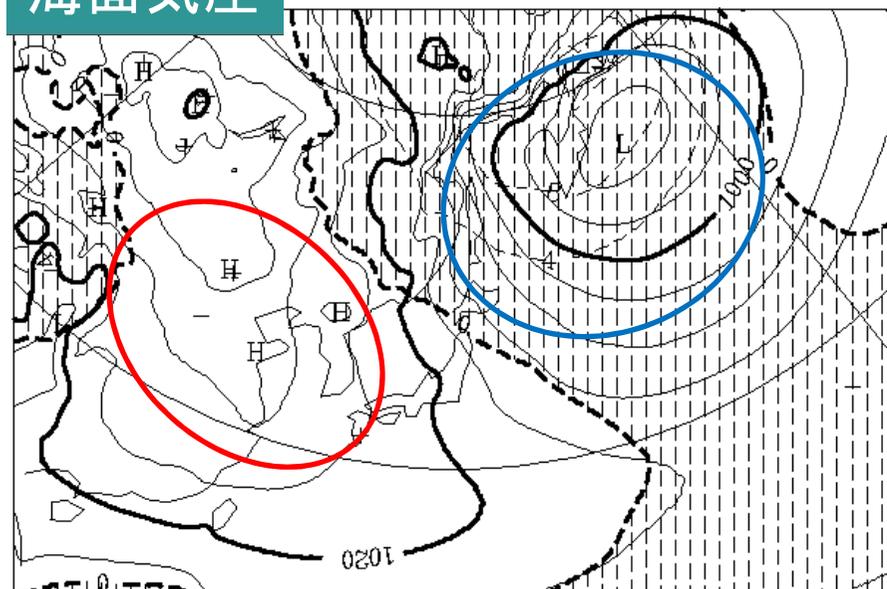


850hPa気温



全国的に負偏差。

海面気圧



カムチャツカの東付近を中心に低気圧が強い一方、シベリア高気圧が強く東シナ海まで張り出し、日本付近では冬型の気圧配置が強い。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、冬型の気圧配置の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、冬型の気圧配置の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

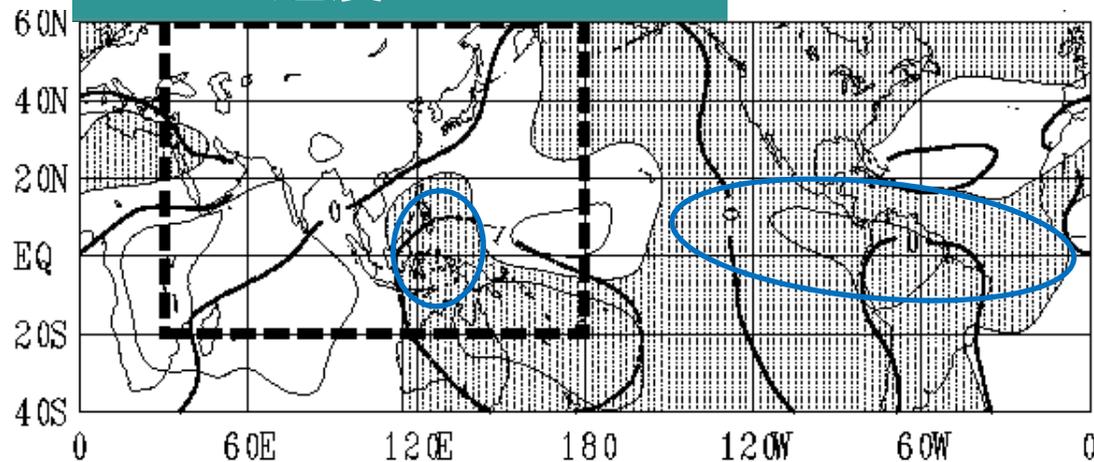
<気温>

- ・ 寒気の影響が強く、全国的に低温傾向。期間のはじめは、全国的にかなりの低温となる見込み。

<天候>

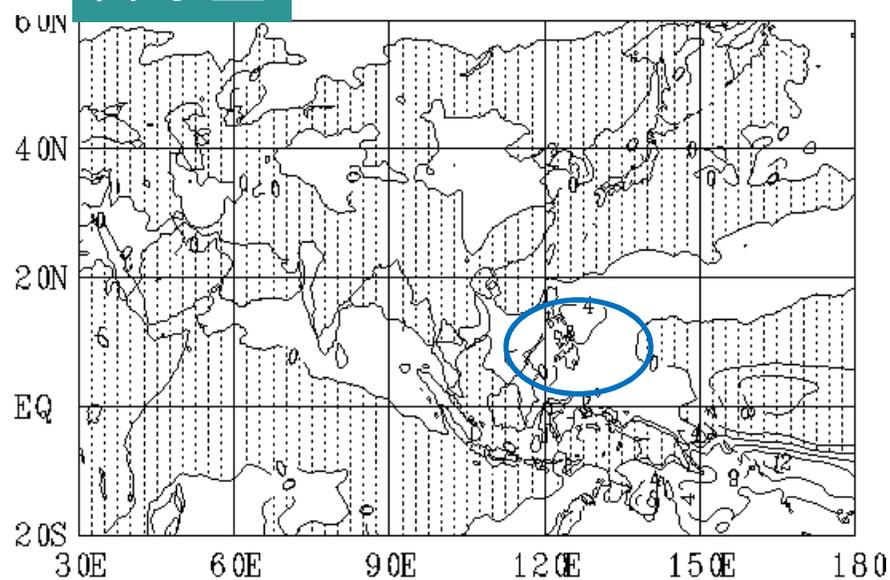
- ・ 全国的に、冬型の気圧配置の影響を受けた天候を見込む。

200hPa速度ポテンシャル



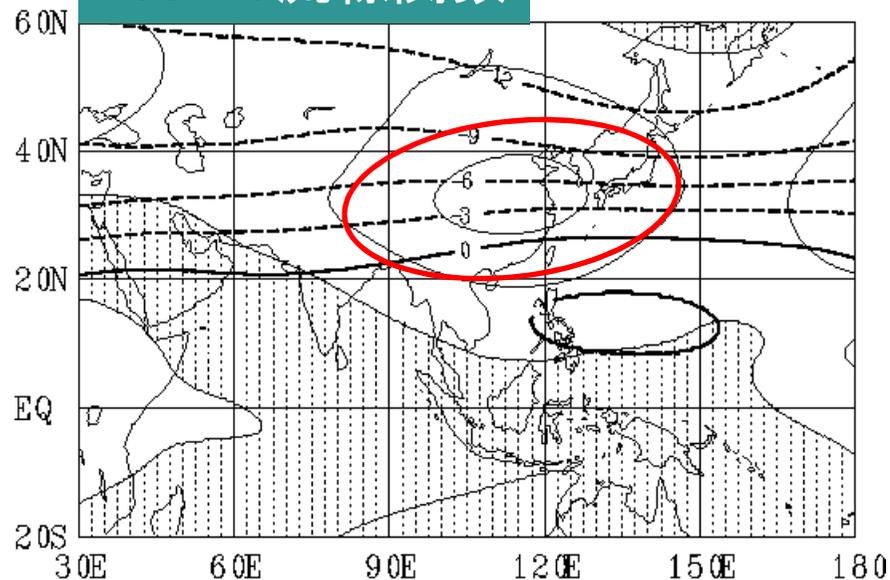
熱帯域では東部太平洋から南米付近にかけて上層発散偏差。フィリピン付近にも上層発散偏差が残る。

降水量



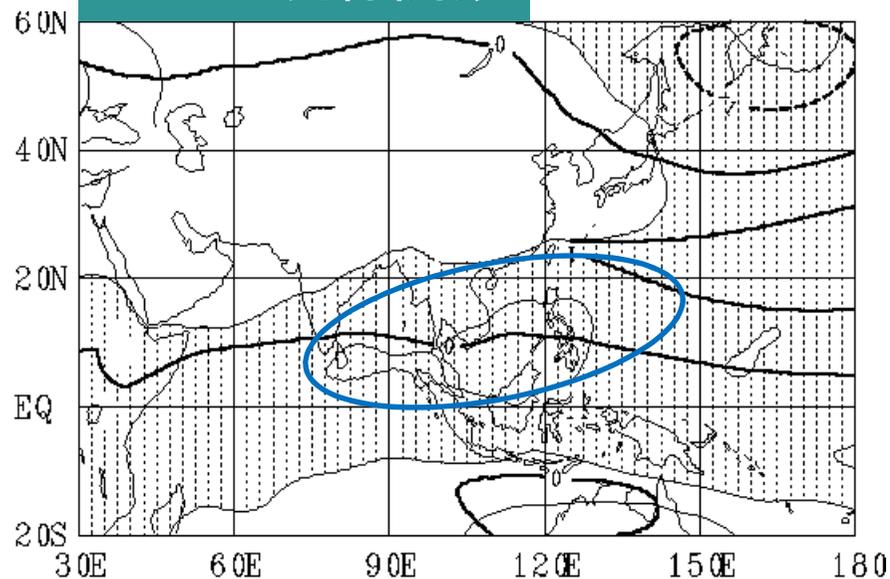
フィリピン付近で多雨偏差。

200hPa流線関数



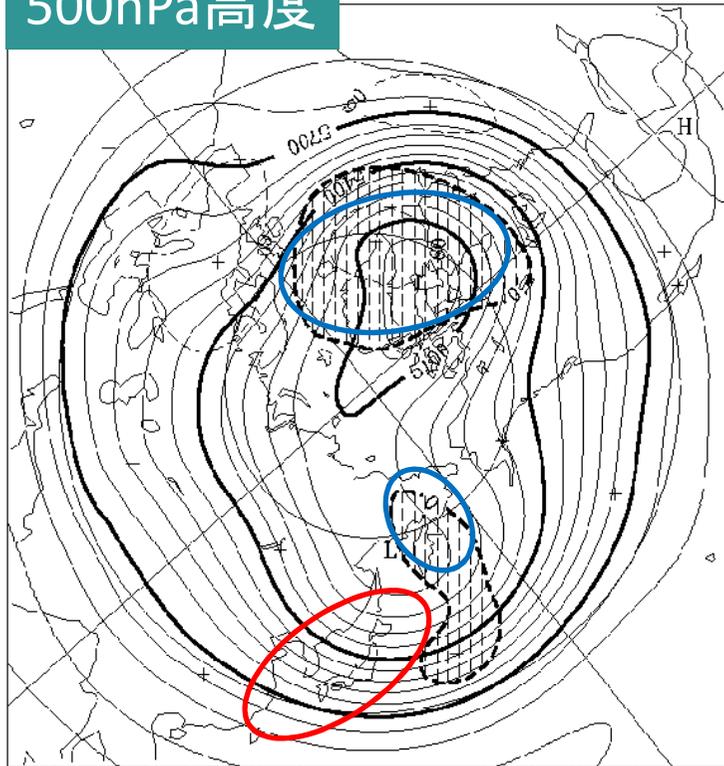
チベット付近から日本付近にかけて高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

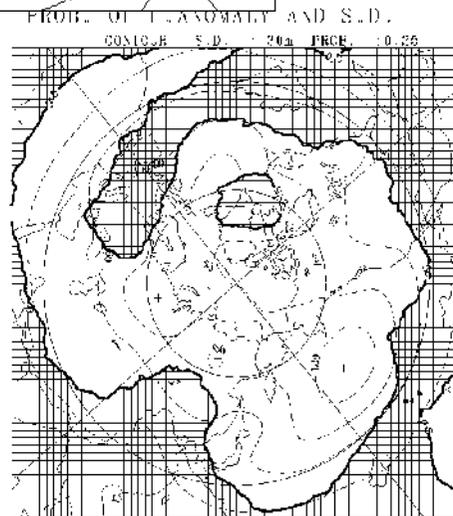
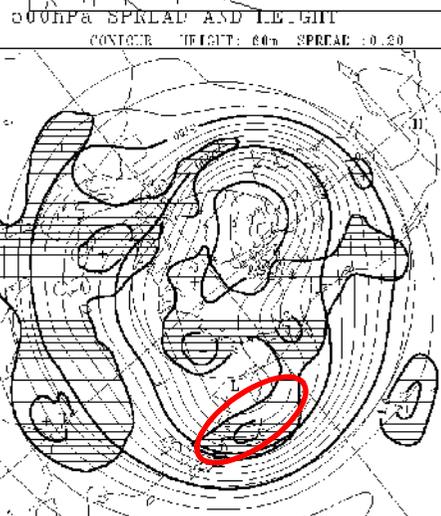


ベンガル湾からフィリピン東方海上にかけて低気圧性循環偏差。

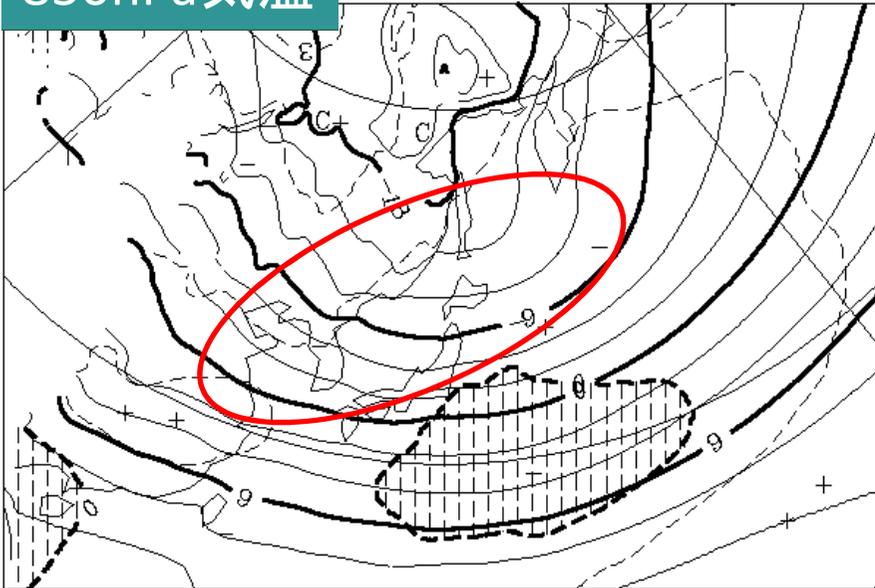
500hPa高度



カナダ北東部で極渦が強い一方、2週目にオホーツク海付近にあった極渦は弱まる。日本付近は正偏差だが、北日本付近ではスプレッドが大きい。

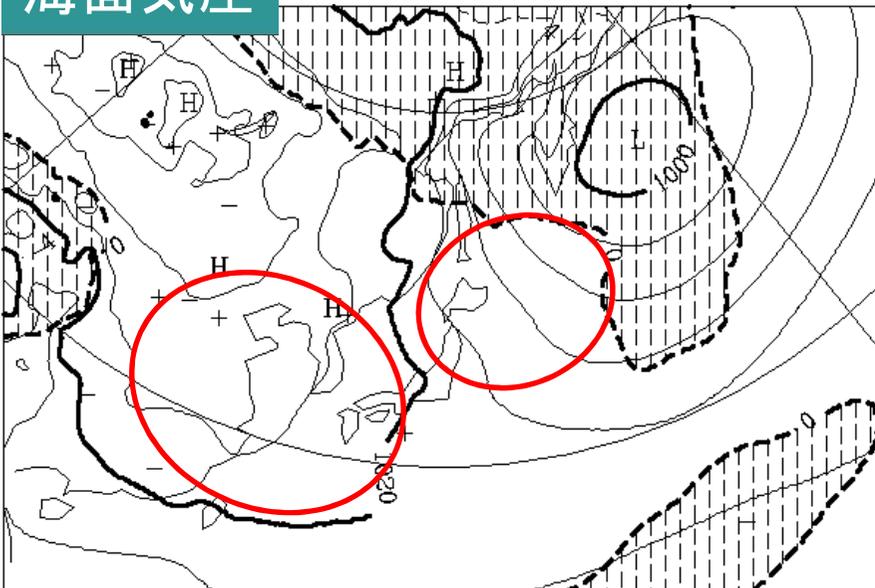


850hPa気温



日本付近は正偏差。

海面気圧



アリューシャン低気圧は中心の西側で弱い。一方、シベリア高気圧が強く西日本まで張り出す。このため、北日本では、冬型の気圧配置が長続きしない一方、西日本太平洋側や沖縄・奄美を中心に低気圧や気圧の谷の影響をやや受けにくい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

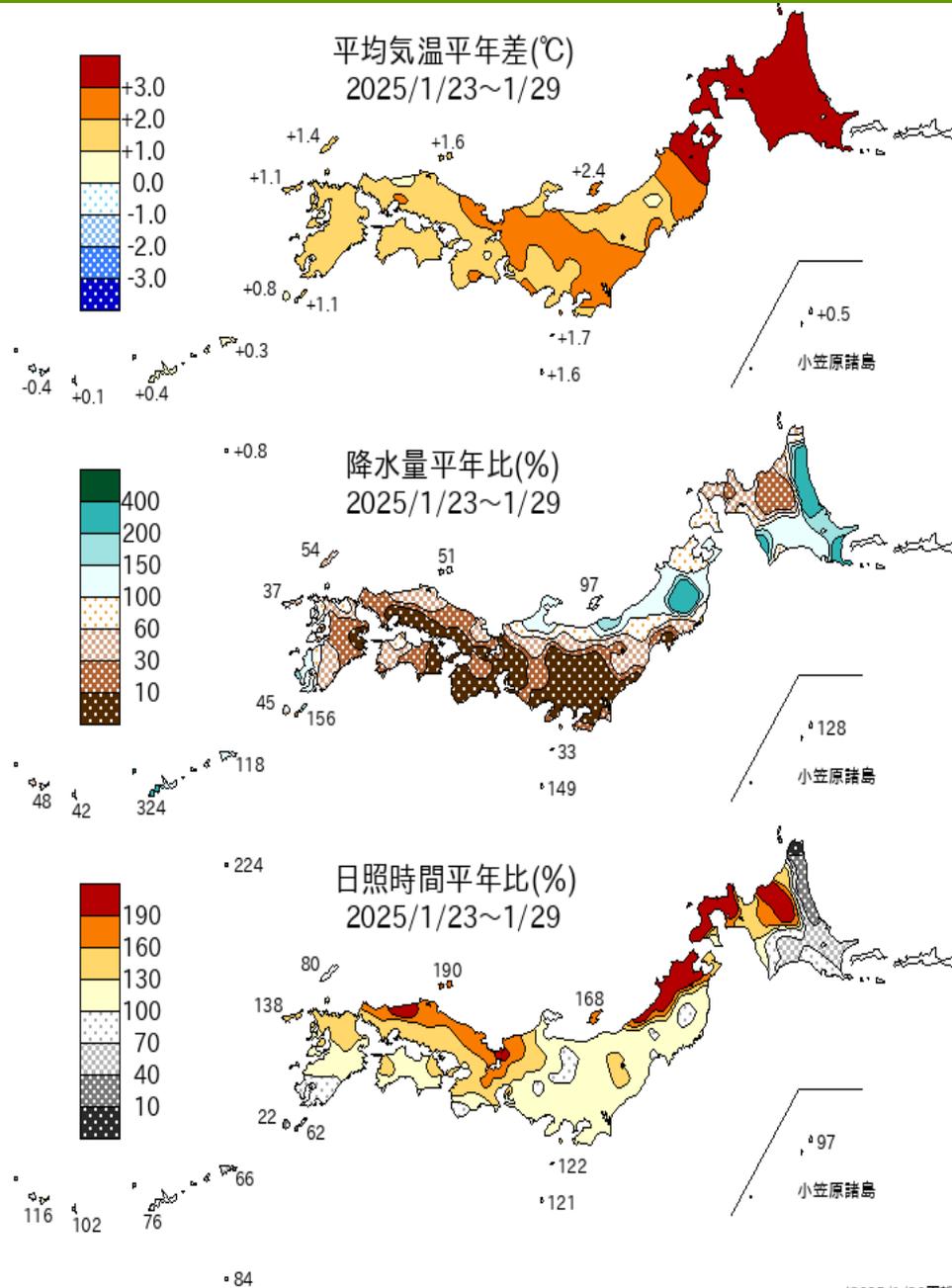
<気温>

- ・ 寒気の影響がやや弱いため、北・東日本では高温傾向。

<天候>

- ・ 東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では低気圧の影響をやや受けにくく、日照時間は平年を上回る可能性があるが、平年からの天候の偏りを見込むほどではない。

最近1週間の天候経過



最近1週間(1月23日~1月29日)は、冬型の気圧配置は長続きせず、低気圧が短い周期で北日本を通過しました。一方、東・西日本は高気圧に覆われて、晴れた日が多くなりました。沖縄・奄美は、期間のはじめに低気圧や湿った空気の影響を受け、期間の終わりには寒気の影響を受けました。これらのことから、降水量は北日本太平洋側と沖縄・奄美の一部で平年を上回った他は平年を下回り、日照時間は北日本太平洋側と沖縄・奄美の一部で平年を下回った他は平年を上回った所が多くなりました。気温は寒気の影響を受けにくかったため、全国で平年を上回り、特に北日本では大きく上回りました。